

令和 5年度 園評価書

園番号52

名前 由比中央こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている, C:あまりできていない, D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園評価	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組)
心も体も元気な子	一人一人の「やりたい」の思いをつなげる	体を動かす心地よさを味わい、喜んで遊ぶ	○どの歳児も広い園庭で自分の好きな遊びを見つけ体を動かし遊んでいる ○可動用具を自分たちで並び、サーキットを作り出し楽しんでいる ○縄跳び、雲梯、鉄棒、とび箱、竹馬等自らの目標をもち意欲的に挑戦している	A	A	・どの子もいつも広い園庭で自分の好きな遊びを見つけ体を動かして遊んでいる ・公開保育でも自分の目標を持ち遊んでいる姿が見られた ・年長でも「自分の思いを相手に伝え、相手の思いに気付く」の指標が高いのではないかと検討し、取り組んでほしい ・色々な遊具がある中、友達と工夫しながら遊んでいる	・引き続き、発達に合わせた素材、用具を準備し、選べたり試したりできる環境づくりを子どもと一緒に行う ・可動用具を子どもが出し入れしやすい工夫する ・子どもと一緒に体を動かしながら、ケガ防止の為体の使い方を身につけられるよう援助する ・保育教諭が一人一人の思いを肯定的に受け止め関わる事で受け止めてもらった安心感がもてるようにする。保育教諭が丁寧な仲立ちをしていくことで、相手の気持ちに気付けるようにしていく
		自分の思いを相手に伝え、相手の思いに気付く	○遊びや生活の場面で、友達や保育教諭にやってほしい事を伝える。自分の思いを言葉やしぐさで表出できている ○保育教諭に思いを受け止めてもらう(安心感)を大切にしていた事で、相手の思いや考えに耳を傾けようとする姿もみられるようになってきた △相手の思いに気付く、受け止めることは個人差がある	B	B		
		自分なりに試行錯誤しながら、やりたいことを実現しようとする	○歳児ごと発達や興味に合わせた環境を準備する事で、様々な素材や道具に触れ、自分なりに試したり、工夫しながら遊ぶ姿が見られた ○うまくいかなくても、やり方を変え、何度も挑戦し、思いを達成しようとする姿がみられた	A	A		・引き続き、発達に合わせた素材、用具を準備し、選べたり試したりできる環境づくりをする

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園評価	自己評価	関係者評価	後半評価	改善策 (来年度の具体的な取組)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	一人一人の発達や経験を把握し、いろいろな人やもの、自然とかかわっている	○散歩に出掛け、地域の方と挨拶を交わしたり、自然に親しみ季節の変化を感じたりすることができた ○夏の異年齢縦割りグループで、秋にはそのグループごとに散歩に出掛け継続している	A	A	・散歩に引き続き出かけ、自然に親しみ遊んでいく ・子どもの生活リズムを大切にし、安心して過ごせるよう配慮して保育を行なっていると思う ・子どもの思いを見取るよう意識が伝わり、環境への努力がみられる	・地域の自然、文化に触れる機会を計画的に実施できるような年間計画を作成、実施する ・積極的に地域の自然に出向き実体験を積み、保育にいかす ・異年齢のかかわりを大切にする
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の生活リズムを大切にし、安心して過ごせるようにする	○子どもの健康観察を丁寧にしながら体調や様子を職員間で共有していることで、その子に合った対応をし、安心して過ごせるよう配慮した	A	A	・様々な想定をした訓練を行っているという事で今後も、続けてほしい ・これからも、楽しい雰囲気の中で食事を行えるといいですね	・今後も登園時の視診、保護者からの聞き取り、伝達、出欠席の確認を確実にし、職員間で情報共有しながら、安全安心に園生活を送れるようにする
	(3)環境を通して行う教育及び保育	その子の思いがかなう環境作りをする	○子どもを見取る意識が高まり、その子の思いを受け止め、素材、用具、場所を考えた準備したりして思いがかなう環境作りをした ○大きい子と同じことをしたいという思いを見取り、その年齢に合った用具や道具を考え提供した	A	A	・一人一人に合わせた支援を行ない、保育している。小学校と連携し個人の引継ぎをしていく ・毎年職員が変化する中、組織運営の難しさを感ずる。会議や打ち合わせの工夫をし、周知をし、連携して取り組んでいく ・親からは子どもに対して、否定的なことばが出てしまう中、園では一人一人の子どもを肯定的に捉え、前向きな保育をさせていただきたい ・ただ子どもを見ているのではなく、目標をかかげておいて保育をしていることがステキですし、すごいですね。いろいろな遊びが混在していて難しいのではないかと、本当にやるのがいっぱいですね	・子どもがもっとやってみようという遊びの環境作りを行う ・その子の思いに対して、その場での物や場を整える ・園庭環境図を用いて、遊びの拠点や用具の配置等を職員間で周知する ・道具の扱い方や物の大切に伝える。片づけ方、整理整頓を子どもと共に学ぶ
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	多様な災害や事故の情報を共有し、職員全員で安全な園生活を保障する	○様々な想定した訓練を行う中で要員の的確な避難訓練を始めていただいた。毎月の避難訓練を積み重ね、自分の身を自分で守る行動が身についてきている ○ヒヤリハットの会談を共有したり、改善点は職員間で話し合い事故防止に努めた ○用具や遊具の使い方などでヒヤリとして、職員によってとらえかたのバラつきがあったため、園庭環境の見直しを行い、職員間で共通理解を図った △訓練後の反省が一部で共有されず終わってしまっていることがあった	A	A	・研修主任により、研修指定園R3～R5のあゆみをパワーポイントで披露した～ ・親からは子どもに対して、否定的なことばが出てしまう中、園では一人一人の子どもを肯定的に捉え、前向きな保育をさせていただきたい ・ただ子どもを見ているのではなく、目標をかかげておいて保育をしていることがステキですし、すごいですね。いろいろな遊びが混在していて難しいのではないかと、本当にやるのがいっぱいですね	・避難訓練、不審者訓練の振り返り、反省を職員会議や打ち打ちで行い職員で周知し、訓練の反省を次に活かせるようにする ・保護者に訓練の様子を掲示板や便箋で発信していく ・日々、園庭の用具や遊具の安全点検や、ヒヤリハットの共有、改善点を周知し、事故防止に努める
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	食べることを楽しみ、食べ物への興味、関心をもつ	○毎月の食育活動、野菜の栽培、収穫野菜を使ったクッキングを通して食への関心が高まった。毎日の給食やおやつを楽しみにする姿、楽しい雰囲気で食べることを楽しんでいる	A	A	・親からは子どもに対して、否定的なことばが出てしまう中、園では一人一人の子どもを肯定的に捉え、前向きな保育をさせていただきたい ・ただ子どもを見ているのではなく、目標をかかげておいて保育をしていることがステキですし、すごいですね。いろいろな遊びが混在していて難しいのではないかと、本当にやるのがいっぱいですね	・引き続き楽しい雰囲気の中で食事ができるような言葉かけをしていく ・地域の食材について知り、クッキング体験を行い、食べることにさらに意欲を高める
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	個別の支援計画に基づき、職員間で共有し、継続した対応をしている	○加配児の今の姿や困っていることを加配会議やサポートプラン会議で伝え合い、担当の保育教諭だけで考えず、色々な支援方法を話し合い職員間で共有することが出来ている ○ケース会議や講師を招き保護者支援の研修を行い子ども理解、保護者理解を深めた	A	A	・一生懸命やられていることがよくわかります仕事と個人(プライベート)とバランス良く良い環境で行なって下さい(業務改善の意図) 職員との連携がとれていると感じている	・一人一人の発達や特性に応じた対応や子どもの姿を様々な視点で意図交換をし、職員間で共通理解しながら園全体で一貫した援助できるようにしている
5 組織運営	(1)組織体制の充実	自分の分掌に責任をもち、企画を立て職員で連携して行う	○分掌が中心となって準備を進めることができた。分掌の中には、責任者、役割分担を見直し職員に周知し進めた △分掌によっては、周りへの伝達が難しかったり、自分事として捉えにくかったりしている	B	B	・今の取り組みからの分析、そして学びと素晴らしいと思う。小学校だと子どもの人数が増える。全体を見取る力も養ってほしい ・研修を通して先生方が確かな手ごたえを感じているのが伝わってくる。前向きに取り組んでいる ・子どもの一つ一つの行動を深く肯定的に見ている先生方に感謝する ・一生懸命、もっと良くしようと、保育や研修に取り組んでいる事が伝わってくる。「保育が楽しい」「仕事だから」と毎日尽力を注いでいるのも伝わってくる。大変ではないかと心配にもなる。 ・子どもの「やってみよう」環境を整備している。努力が見られる ・クラスボードで子どもの遊んでいる様子や行事の様子を教えてもらいたい ・現在、小学校とこども園の連携がとれている。今後もお便り交流、図書室体験、1日体験入学の企画を立て関わりを深めたり、職員同士が互いに公開保育、公開授業や研修に参加し子ども理解を深めていきたい ・由比の地域の人をどんどん頼って欲しい。地域との交流を増やして欲しい	・職員一人一人が自身の役割について理解し、見通しをもった計画、実施、反省等、PDCAサイクルで取り組んでいく。各分掌の活動内容を、その都度全職員に伝え周知し、互いに声をかけ合い連携して取り組んでいく
6 研修	(1)研修体制の充実	園内研修で、その子の思いがかなう環境づくりについて、手だての有効性を検証し全職員で取り組む	○公開保育やエピソード研修を通して、子どもの見取りや同じ場面で自分だったらどう援助や声掛けをするのだろうと考えた。また語り合いの中で他の保育教諭の子どもの見立方や手立てを聞くことで学びが深まった ○話しやすい雰囲気の中で研修が進められているので、意見が出やすい	A	A	・一生懸命、もっと良くしようと、保育や研修に取り組んでいる事が伝わってくる。「保育が楽しい」「仕事だから」と毎日尽力を注いでいるのも伝わってくる。大変ではないかと心配にもなる。 ・子どもの「やってみよう」環境を整備している。努力が見られる ・クラスボードで子どもの遊んでいる様子や行事の様子を教えてもらいたい ・現在、小学校とこども園の連携がとれている。今後もお便り交流、図書室体験、1日体験入学の企画を立て関わりを深めたり、職員同士が互いに公開保育、公開授業や研修に参加し子ども理解を深めていきたい ・由比の地域の人をどんどん頼って欲しい。地域との交流を増やして欲しい	・研修の年間計画を立て、引き続き職員が学び合える研修体制を作っていく ・各学年公開保育を実施し、具体的な援助を考え合う ・エピソード研修は内容がわかりやすくなるので継続する
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	発達に必要な体験が得られるように教材研究を行い、環境を用意する	○子どもの今の姿から「やってみよう」気持ちに寄り添いつつ、保育教育の願いを込めながら環境設定を行っている △子どもの発達や経験の差があるので一人一人に合わせた教材選びが必要である	B	B	・一生懸命、もっと良くしようと、保育や研修に取り組んでいる事が伝わってくる。「保育が楽しい」「仕事だから」と毎日尽力を注いでいるのも伝わってくる。大変ではないかと心配にもなる。 ・子どもの「やってみよう」環境を整備している。努力が見られる ・クラスボードで子どもの遊んでいる様子や行事の様子を教えてもらいたい ・現在、小学校とこども園の連携がとれている。今後もお便り交流、図書室体験、1日体験入学の企画を立て関わりを深めたり、職員同士が互いに公開保育、公開授業や研修に参加し子ども理解を深めていきたい ・由比の地域の人をどんどん頼って欲しい。地域との交流を増やして欲しい	・職員自身が様々な素材、教材に関心を広げ、子ども達に合うものをみつけられるように教材研究を行う ・来年度は職員間でテーマを決め、年5回、園内研修で、教材研究を行う
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	保護者と育ちの共有をしたり悩みや相談に応じたりし子育てを一緒に楽しむ	○クラスボードで写真を多く使い、子ども達の遊びの様子がわかりやすく掲示したこと、親子の会話につながっている。また、保護者と連絡ノート、送迎時に子どもへの育ちを共有し、コミュニケーションを深めたり、悩み、相談に個別に応じたりした	A	A	・一生懸命、もっと良くしようと、保育や研修に取り組んでいる事が伝わってくる。「保育が楽しい」「仕事だから」と毎日尽力を注いでいるのも伝わってくる。大変ではないかと心配にもなる。 ・子どもの「やってみよう」環境を整備している。努力が見られる ・クラスボードで子どもの遊んでいる様子や行事の様子を教えてもらいたい ・現在、小学校とこども園の連携がとれている。今後もお便り交流、図書室体験、1日体験入学の企画を立て関わりを深めたり、職員同士が互いに公開保育、公開授業や研修に参加し子ども理解を深めていきたい ・由比の地域の人をどんどん頼って欲しい。地域との交流を増やして欲しい	・引き続きクラスボードやドキュメンテーションを使って園の様子、子どもの様子を発信していく。また、行事の過程や様子も発信していく。保護者の中には、ゆくり話したい方もいるので必要に応じて個別面談を見学に行う
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	公開保育を行い情報共有をしている また近隣の園と交流する機会を設け、関わる力を深めている	○年長児の公開保育を由比小学校の校長先生、教務主任の教諭に事後研修にご参加頂きご意見ご感想を頂いた。また、一年生と年長児がペアとなり学校探検を行った。小学校図書室訪問、小学校養護教諭による保健指導等、計画に基づき小学校へのスムーズな移行につながっている。園小一貫教育委員会を通して職員間の交流や情報共有ができた。ゆいこ交流会を定期的に行なう他、日常的に由比とこども園が楽園と一緒に遊ぶ、食へる、出掛けなどの体験を行った	A	A	・一生懸命、もっと良くしようと、保育や研修に取り組んでいる事が伝わってくる。「保育が楽しい」「仕事だから」と毎日尽力を注いでいるのも伝わってくる。大変ではないかと心配にもなる。 ・子どもの「やってみよう」環境を整備している。努力が見られる ・クラスボードで子どもの遊んでいる様子や行事の様子を教えてもらいたい ・現在、小学校とこども園の連携がとれている。今後もお便り交流、図書室体験、1日体験入学の企画を立て関わりを深めたり、職員同士が互いに公開保育、公開授業や研修に参加し子ども理解を深めていきたい ・由比の地域の人をどんどん頼って欲しい。地域との交流を増やして欲しい	・引き続き小学校に公開保育や日頃の保育を見に来て頂く機会をもち、園の取り組みを発信していく。また職員間で情報共有し、継続カリキュラムからスタートカリキュラムへつなげる ・近隣園との交流は密になって計画的に立て、実施する
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域の文化や自然、特産物等を見たり聞いたりして地域を学ぶ体験、経験をする	○由比漁港見学、マルモ農園さつま芋堀り、望月人形見学、デイサービス訪問等を実施することで、地域の方との交流を行ったり、地域の良さや地域の方の温かさに触れることができた	A	A	・一生懸命、もっと良くしようと、保育や研修に取り組んでいる事が伝わってくる。「保育が楽しい」「仕事だから」と毎日尽力を注いでいるのも伝わってくる。大変ではないかと心配にもなる。 ・子どもの「やってみよう」環境を整備している。努力が見られる ・クラスボードで子どもの遊んでいる様子や行事の様子を教えてもらいたい ・現在、小学校とこども園の連携がとれている。今後もお便り交流、図書室体験、1日体験入学の企画を立て関わりを深めたり、職員同士が互いに公開保育、公開授業や研修に参加し子ども理解を深めていきたい ・由比の地域の人をどんどん頼って欲しい。地域との交流を増やして欲しい	・地域とのかかわりができるよう、園での取り組みや思いを発信し、計画的に地域の文化、自然、特産物等とかがわかるよう、連携し実践していく